

電源立地地域温排水対策事業 温排水有効利用事業導入基礎調査

(大間地点)

(要約)

高林 信雄

温排水を有効利用したアワビ増殖の可能性について検討するための基礎資料を得ることを目的として、アワビ中間育成試験及び放流アワビ追跡調査を実施した。なお、詳細は「平成6年度電源立地地域温排水対策事業報告書(大間地点)」(平成7年3月、青森県)として報告した。

1. アワビ中間育成試験

- ① 青森県栽培漁業センターの平成5年産エゾアワビ稚貝(平均殻長20.31mm)3万個を平成6年6月10日、大間漁業協同組合水産資源中間育成施設(陸上施設)へ収容し、配合餌料区とコンブ餌料区の試験区を設定して平成6年10月31日まで中間育成試験を実施した。
- ② 育成期間中の水温は13.1～26.0℃、平均増殻長は配合餌料区で11.00mm(0.070mm/日)、コンブ餌料区で5.05mm(0.035mm/日)、平均増重量は配合餌料区で3.06g(0.021g/日)、コンブ餌料区で1.03g(0.007g/日)とコンブ餌料区に比べ配合餌料区の成長が勝っていた。生残率は配合餌料区で96.90%、コンブ餌料区で97.00%と、両者に明確な差はみられなかった。
- ③ 育成を終了したエゾアワビ29,088個は、平成6年10月31日、潜水により大間町割石地先の禁漁区へ全数放流した。

2. 放流アワビ追跡調査

- ① 平成5年度までに大間町割石地先の禁漁区へ中間育成後放流したエゾアワビについて、平成6年10月31日、潜水により採取り調査を行った。
- ② 採取したエゾアワビは43個体で、殻頂部の緑色及び殻長からその全てが放流貝であると推定された。
- ③ 外敵生物ではイトマキヒトデが主で、8地点から15個体が採取された。
- ④ 海藻ではタンバノリ、ツルアラメ、ジョロモクの順に多かった。
- ⑤ 平成5年10月29日に大間町割石地先の禁漁区で行った放流アワビ追跡調査の結果を基に解析を行ったところ、次ぎのことが示唆された。
 - 放流アワビは、放流後1年で約9mm、放流後2年で約19mm、放流後3年で約25mm成長する。
 - 放流アワビは、放流後2年間はへい死や移動による減耗が大きく、その後は残存が安定する。
 - 平成2年度の放流アワビは平成3年度のそれに比べ、成長、生残とも高い。